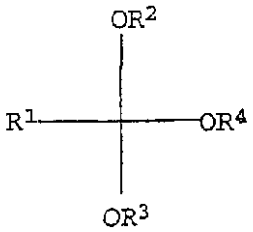
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第４区分
【発行日】平成23年7月7日(2011.7.7)

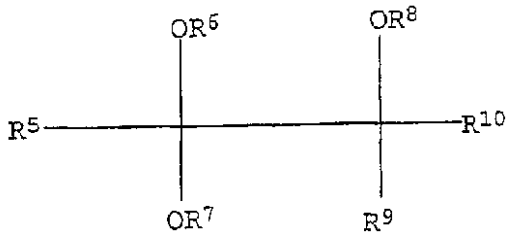
【公表番号】特表2004-508463(P2004-508463A)
【公表日】平成16年3月18日(2004.3.18)
【年通号数】公開・登録公報2004-011
【出願番号】特願2002-525072(P2002-525072)
【国際特許分類】
Ｃ２５Ｂ　3/02　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　43/32　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ２５Ｂ　3/02
Ｃ０７Ｃ　43/32

【誤訳訂正書】
【提出日】平成23年5月23日(2011.5.23)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】特許請求の範囲
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　オルトカルボン酸トリアルキルエステル（オルトエステルＯ）をＣ$_1$～Ｃ$_4$－アルコール（アルコールＡ）の存在下にα，β－ジケトン又はα，β－ヒドロキシケトンの電気化学的な酸化によって製造するにあたり、ケト官能基がＣ$_1$～Ｃ$_4$－アルキルアルコールから誘導されるケタール官能基の形で存在し、かつヒドロキシル官能基が場合によりＣ$_1$～Ｃ$_4$－アルキルアルコールから誘導されるエーテル官能基の形で存在し（ケタールＫ）、電解質中でオルトエステルＯ及びケタールＫからの合計とアルコールＡとのモル比が０．２：１～５：１である方法。
【請求項２】　前記オルトエステルＯであるオルトエステルＩが一般式Ｉ
【化１】



Ｉ

［式中の置換基は以下の意味を有する：
Ｒ^{1}は水素、Ｃ$_1$～Ｃ$_{20}$－アルキル、Ｃ$_2$～Ｃ$_{20}$－アルケニル、Ｃ$_2$～Ｃ$_{20}$－アルキニル、Ｃ$_3$～Ｃ$_{12}$－シクロアルキル、Ｃ$_4$～Ｃ$_{20}$－シクロアルキル－アルキル、Ｃ$_4$～Ｃ$_{10}$－アリールであるか、又は前記基はＣ$_1$～Ｃ$_8$－アルコキシ又はＣ$_1$～Ｃ$_8$－アルコキシカルボニルによって一置換乃至三置換されていてよく、
Ｒ^2、Ｒ^{3}はＣ$_1$～Ｃ$_{20}$－アルキル、Ｃ$_3$～Ｃ$_{12}$－シクロアルキル、又はＣ$_4$～Ｃ$_{20}$－シクロアルキル－アルキルであるか、又はＲ^{2}及びＲ^{3}は一緒になってＣ$_2$～Ｃ$_{10}$－アルキレンを形成し、
Ｒ^{4}はＣ$_1$～Ｃ$_4$－アルキルである］の化合物であり、該化合物は一般式ＩＩ
【化２】



II

［式中の置換基は以下の意味を有する：
R^5、R^{10}はR^1と同じ意味であり、
R^6、R^7はR^2と同じ意味であり、
R^8は、R^9がR^1と同じ意味を有するか又はR^2と同じ意味を有するという条件で水素であり、
R^9はR^1と同じ意味又は－O－R^2である］の前記ケタールＫであるケタールＩＩに由来する、請求項１記載の方法。

【請求項３】　前記オルトエステルＯであるオルトエステルＩは、R^1が水素、C_1～C_6－アルキルであり、R^2、R^3、R^4がメチル又はエチルである化合物（オルトエステルＩｃ）であり、該化合物が式中の置換基が以下の意味を有する：
R^5、R^{10}はオルトエステルＩｃ中のR^1と同じ意味であり、
R^6乃至R^9がオルトエステルＩｃ中のR^2又はR^1と同じ意味である
前記ケタールＫであるケタールＩＩ（ケタールＩＩｃ）に由来する、請求項２記載の方法。

【請求項４】　前記オルトエステルＯであるオルトエステルＩがオルトギ酸メチルエステル又はオルトギ酸エチルエステル又はオルト酢酸メチルエステル又はオルト酢酸エチルエステル（オルトエステルＩｄ）であり、該エステルが１，１，２，２－テトラメトキシエタンもしくは１，１，２，２－テトラエトキシエタン（ケタールＩＩｄ）もしくは１，１，２，２－テトラメトキシプロパンもしくは１，１，２，２－テトラエトキシプロパンもしくは２，２，３，３－テトラメトキシブタンもしくは２，２，３，３－テトラエトキシブタンに由来する、請求項３記載の方法。

【請求項５】　対イオンとして硫酸イオン、硫酸水素イオン、アルキル硫酸イオン、アリール硫酸イオン、ハロゲン化物イオン、リン酸イオン、炭酸イオン、アルキルリン酸イオン、アルキル炭酸イオン、硝酸イオン、アルコラートイオン、テトラフルオロホウ酸イオン又は過塩素酸イオンを有する電導度塩としてのテトラ（C_1～C_6－アルキル）アンモニウム塩又はトリ（C_1～C_6－アルキル）ベンジルアンモニウム塩を含有する電解質中で実施する、請求項１から４までのいずれか１項記載の方法。

【請求項６】　電導度塩としてメチルトリブチルアンモニウムエチル硫酸塩、メチル－トリプロピルアンモニウムメチル硫酸塩、メチルトリエチルアンモニウムメチル硫酸塩又はテトラメチルアンモニウムメチル硫酸塩を使用する、請求項１から５までのいずれか１項記載の方法。

【請求項７】　区画化されていない電解セル中で実施する、請求項１から６までのいずれか１項記載の方法。

【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３２】
電解質溶液中に含まれている電導度塩としては、一般にアルカリ金属、テトラ（C_1～C_6－アルキル）アンモニウム塩又はトリ（C_1～C_6－アルキル）ベンジルアンモニウム塩である。対イオンとしては、硫酸イオン、硫酸水素イオン、アルキル硫酸イオン、ア

リール硫酸イオン、ハロゲン化物イオン、リン酸イオン、炭酸イオン、アルキルリン酸イオン、アルキル炭酸イオン、硝酸イオン、アルコラートイオン、テトラフルオロホウ酸イオン又は過塩素酸イオンが該当する。

【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３４】
メチルトリブチルアンモニウムメチル硫酸塩（ＭＴＢＳ）、メチルトリエチルアンモニウムメチル硫酸塩又はメチル－トリプロピルアンモニウムメチル硫酸塩が有利である。